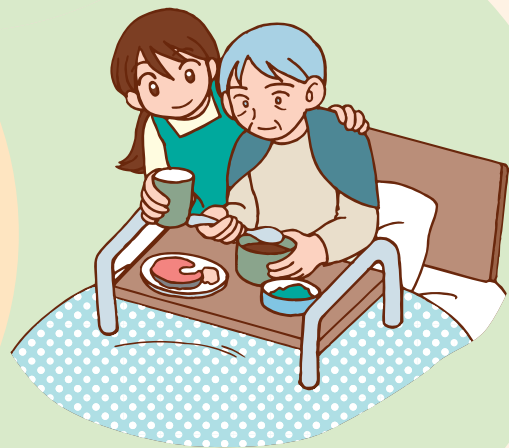


愛知の教育を考える懇談会
最終報告のあらまし

あいちの教育新生

社会のために役立つことができる人を育てるために



平成17年2月
愛知県

愛知の教育を考える懇談会について

趣 旨

「愛知の教育を考える懇談会」は、教育の問題を学校だけの問題としてとらえるのではなく、社会全体の幅広い観点から議論し、核心的な問題点を浮き彫りにしながら、解決の方向や、解決の糸口となる方策をみつけていくため、愛知県知事からの要請を受け、平成15年7月に発足しました。

< 構 成 員 >

- 懇談会は、学識者、産業界・労働界の方、学校関係者、市町村長、県民から公募した方など幅広い分野の方々 25名で構成されています。
(最終ページ参照)
- 懇談会の下に、専門的事項について調査検討を行うため「子どものこころ」部会と「社会を支える人づくり」部会が設けられました。

運営経過

平成15年7月31日の第1回会議以来、懇談会を6回、両部会を7回ずつ開催しました。また、県民の皆様のご意見をお聞きするため、タウンミーティングや県民アンケート調査も実施しました。最終報告は、平成17年2月4日に神田知事に提出しました。

最終報告の提出に併せて、松尾 稔座長から県に対し、以下のとおり懇談会提言の早期具体化についての要請がなされました。



早期に事業実施できるものについては、平成17年度予算に積極的に盛り込むこと。
具体化に向けて更に検討が必要となるもの(例えば、命を大切にする教育、きまりを守る心・態度の育成など)については、直ちに検討に着手し、できる限り早期に事業化できるよう取り組むこと。
提言した取組の事業熟度や実施主体が様々であることを踏まえ、各実施主体の理解・協力を得ながら、事業内容、実施スケジュール、県の役割等を明らかにし、計画的な対応を図ること。

1

愛知の教育新生についての基本認識

今日の教育問題の多くは、これまでの社会の有り様が反映されたものであり、子どもたちの教育を考えるとすることは、地域の大人たち全てに突き付けられた大変大きな課題である。

社会を支えるのは一人ひとりであるという大切なことが忘れられている。周りの人、ひいては社会のために役立つことができる人を育てることを今後の教育の根幹に置くべきである。



「善悪をわきまえ、他人を思いやる心」と「社会で役立つための意欲・力」を子どもたちが身に付け、**社会のために役立つことができるようにすること**を、今後の教育の柱、課題とすべきである。

2

子どもたちの教育をめぐる主な環境変化



家庭

核家族化、少子化が進み、兄弟や祖父母との関わりが減少するなど、家族内の人間関係が多面性を失う
過保護や過干渉、放任、虐待など親子関係が過度になりすぎる面がある

学校

わがままな子どもが増え、学校で規律違反に対する厳しい指導・処置がしにくい
授業時間数や学習内容が削減されてくる中で、子どもの基礎的な学力が低下

地域

都市化の進行や農業・自営業の減少に伴って、地域コミュニティが崩れ、地域の人々の様々なつながりの中で保たれてきた教育力が低下
高齢社会になり退職後に地域に戻る高齢者が増加するとともに、地域の問題に関わろうとするNPO活動が活発化

企業・団体

社会的に大きな存在である企業・団体が教育に果たす役割への期待が強まる
少子化に伴う若年労働力の減少や企業間競争の激化の中で、企業・団体自身が、人材確保の観点から教育への関心を強めている

3

愛知の教育新生の取組方向

1 「善悪をわきまえ、他人を思いやる心」を身に付けさせる

目標：社会生活を営む上で不可欠の心構えを身に付けさせるとともに、いじめ、不登校、非行をなくす

1 命を大切にしている教育の充実

「命を大切にしている教育」研究会を設けて、生命の誕生、生・死の重さ、生物の生態など様々な角度から指導内容や指導方法を検討し、その成果をもとに取組を推進

2 人間関係を築く力の育成

異なる学年による学校行事や幼・保・小・中の相互訪問などにより、異年齢の子ども同士の交流・活動の機会を拡大
「あいち・出会いと体験の道場(仮称)」(後出)を創設

3 人としてきまりを守る心・態度の育成

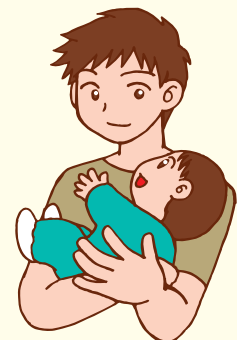
子どもの成長・発達段階に応じた学校のきまりづくりへの児童生徒の参画や、きまりが守られない場合の対応のあり方を検討・提示
条例等による規制など青少年の健全育成に有害な環境の浄化を一層推進

4 いじめ、不登校など多様な課題に対応する体制づくり

いじめ、不登校などの兆候の早期発見・対応のため、全中学校へのスクールカウンセラー配置を急ぐとともに、小学校での巡回指導を順次実施
いじめ、不登校、児童虐待の当事者である家庭・学校を行政と地域社会が支援する体制の構築を検討

5 親心の育成(親育ちへの支援)

幼稚園や保育所などを活用して、子育てに悩む親同士が交流したり、アドバイスが受けられるような場・機会を拡充
実際に困難を乗り越えた親子の経験談集を作成し、問題克服のヒントとして提供



2 「社会で役立つための意欲・力」を身に付けさせる

目標：基礎・基本の学習を徹底するとともに、社会で役立つという心構えをはぐくむ

1 基礎的な学力を向上させる義務教育の充実

指導方法の工夫や指導に必要な時間の確保を図るなどして、読み・書き・計算など基礎・基本の確実な習得を図る
理解度に差が付きやすい算数・数学などに重点を置いた少人数指導を推進



2 21世紀の新しい基礎的な学力：英語・ITを使いこなす能力の育成

英語とITの能力育成のため、手法・方策、カリキュラムを研究・工夫
英語教育については、国語教育をより重視すべきなどの意見を踏まえて検討

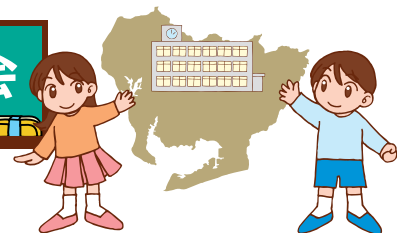
3 学習意欲・目的意識を持つことができる高校教育の充実

総合学科の設置やコース制の導入を推進し、生徒一人ひとりが学習意欲・目的意識を持つことができるような高校教育システムを構築
企業、大学と連携して、高校生が専門的、実践的な能力を身に付ける取組を推進

4 職業観・勤労観の育成

社会の成り立ちを理解し、職業観・勤労観や人間関係を築く力を育成する機会として、中学生を対象に、1週間程度の職場体験などを行う「あいち・出会いと体験の道場(仮称)」を創設

愛知の教育を考える懇談会



3 教育委員会及び学校現場の活性化

目標：地域とともに学校の活力を高める

1 教育委員会の教育政策立案・推進体制の強化

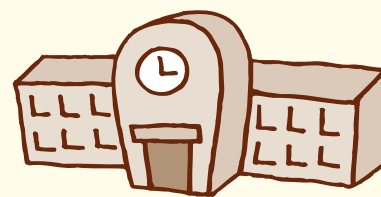
教育政策の実質的な議論を活発にするよう、教育委員会会議の審議機会を拡充
教育委員を支える教育委員会事務局の体制を強化

2 開かれた学校づくりの推進

学校運営についての自己評価や地域住民に意見を求める仕組みとして効果的な取組を、学校に紹介・普及

3 教員等の資質向上

教員のやる気を引き出す教員評価制度を構築
指導力不足教員には厳格に対応
社会経験を重視した採用など、教員採用の改善策を順次実施



4 愛知の特色や将来方向を踏まえた時代変化に対応する人づくり

目標：愛知の未来を創造する人を育てる

1 国際化時代に活躍できる人づくり

- 世界の多様な文化を肌で感じられるよう、県内の小中学生の愛知万博見学を奨励
- 増加する外国人労働者の子どものための教育環境を充実

2 世界をリードする産業・技術の集積県としての特色を生かした人づくり

子どもたちのモノづくり体験やモノづくり名人との交流などを、企業等と連携して実施

3 全国有数の農業県としての特色を生かした人づくり

農林水産業体験や農山漁村での生活体験を通じて、豊かな人間性や郷土意識を育成

4 環境先進県を目指す愛知にふさわしい環境学習の推進

愛知万博の成果を継承し、「里山学びと交流の森づくり事業」などと連携した環境学習プログラムを開発



4 愛知の教育新生の実現に向けて

県として果たすべき役割

教育部門はもとより、福祉、青少年育成、産業・労働等の部門を含め総合的な観点から施策を立案し、各主体の取組を促す条件整備を行うことが重要
施策の成果を評価し、効果のある施策を重点的に進めるとともに、まずは新しい取組に意欲的な市町村や学校と連携したモデル的な事業から始め、その成果を踏まえて事業を拡大するなどの工夫が必要
懇談会では取り上げなかった課題(特別支援教育、高等教育、学校の安全管理など)について、県として検討を行い、適切な対応を図ることが必要

教育に関わる様々な主体に期待される役割

家庭の役割

- 全ての教育の出発点。子どもが基本的な生活習慣・生活能力、忍耐力、社会的なマナーなどを身に付ける上で重要な役割を担う
- 学校に対して過度に期待・依存するのではなく、学校や地域など社会全体の支援によってしっかりと役割を果たす

学校の役割

- 基礎的な学力の定着と個性を伸ばす教育、社会性や規範意識などを身に付けさせる
- 教育活動の内容や成果について情報提供し、家庭や地域との連携協力を図る

地域の役割

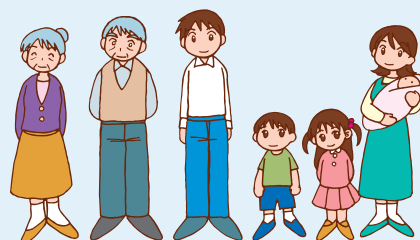
- 人として子どもが鍛えられる重要な場。地域の大人が積極的に子どもたちに関わって、その成長を支えていく
- 高齢者やNPOなどの人材を地域の様々な教育活動に積極的に活用する

企業等の役割

- 次代を担う人材の育成に役割を果たすことが自らの発展にとっても重要
- 社員が子育てにもっと関われるような環境づくり、社会人講師の派遣やインターンシップの受け入れなど学校教育への協力など様々な面での役割発揮

市町村の役割

- 子育て支援や家庭教育の充実など、総合的な観点から教育政策を立案・推進する
- 地域における教育環境の改善、適切なまちづくりに配慮する



愛知の教育を考える懇談会構成員名簿(50音順)

石井 悦雄(江南市立古知野中学校長)
伊藤公治郎(学校法人尾張学園名古屋大谷高等学校長)
伊藤 千鶴(県民公募)
上田 修幹(県民公募)
江口 昇勇(愛知学院大学心身科学部教授)
岡田 順一(愛知県立中村高等学校長)
岡部 弘(株式会社デンソー取締役会長)
長田百合子(エデュケーションライター)
笠松 和永(東海テレビ東名体操クラブヘッドコーチ)
梶田 正巳(中部大学人文学部教授)
加藤 主税(椋山女学園大学人間関係学部教授)
神谷 忠雄(安城市教育委員会教育委員長)
下垣 真希(ソプラノ歌手)

鈴木 公平(豊田市長)
中野 靖彦(愛知教育大学教育学部教授)
西山八重子(金城学院大学現代文化学部長)
長谷川桂子(弁護士)
堀下 猛(日本労働組合総連合会愛知県連合会会長)
本部 鉄男(名古屋市立神丘中学校教諭)
正高 信男(京都大学霊長類研究所教授)
松尾 稔(財団法人科学技術交流財団理事長
・前名古屋大学総長)
松山美重子(豊田市立挙母小学校長)
水谷 研治(中京大学大学院教授)
山本 理絵(愛知県立大学文学部助教授)
吉田 敬岳(学校法人自由ヶ丘学園自由ヶ丘幼稚園長)

：座長 座長代理

「子どものこころ」部会構成員名簿(50音順)

足立 珠佳(前新城地方幼小中学校PTA連絡協議会顧問)
石井 悦雄(江南市立古知野中学校長)
江口 昇勇(愛知学院大学心身科学部教授)
長田百合子(エデュケーションライター)
小田 博一(愛知県立西春高等学校長)
梶田 正巳(中部大学人文学部教授)
加藤 光久(名古屋家庭裁判所主任家庭裁判所調査官・16年度)
加藤 義和(豊田市立前林中学校教諭)
西山八重子(金城学院大学現代文化学部長)
長谷川桂子(弁護士)
松山美重子(豊田市立挙母小学校長)
森 洋三(名古屋家庭裁判所主任家庭裁判所調査官・15年度)
山田 光治(愛知県中央児童・障害者相談センター児童指導課長)
山本 理絵(愛知県立大学文学部助教授)
吉田 敬岳(学校法人自由ヶ丘学園自由ヶ丘幼稚園長)

「社会を支える人づくり」部会構成員名簿(50音順)

伊藤公治郎(学校法人尾張学園名古屋大谷高等学校長)
大場 稔(愛知県立豊川工業高等学校長)
岡田 順一(愛知県立中村高等学校長)
川本 健仔(新川町立新川小学校長)
鈴木 洋一(学校法人菊武学園菊華高等学校長)
高島 健二(愛知県経営者協会常勤顧問)
滝本 幸彦(日本労働組合総連合会
愛知県連合会社会政策局長)
中神 時彦(田原市立田原中学校長)
中野 靖彦(愛知教育大学教育学部教授)
本部 鉄男(名古屋市立神丘中学校教諭)
水谷 研治(中京大学大学院教授)
毛受 芳高(特定非営利活動法人
愛知市民教育ネット代表理事)

：部会長 副部会長



愛知県企画振興部企画課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6135 (ダイヤルイン)

F A X 052-971-4723

ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/kikaku/shinsei/kondankai/>

(「最終報告」全文をご覧いただけます)